

こんにちは

西  学校です

見附市立西中学校  
学校だより  
令和4年2月9日  
第21号

## まず、〔 〕をあらためよ

校長 水戸 巖

明和会総会前、学級討議への回答が生徒玄関前に掲示されていました。その中に、右の写真のように総務や各専門委員会の活動に対するねぎらいの言葉も記されていることに気づきました。こういったことが自然とできるのも西中生のすばらしさだなと感じているところです。

さて、2月は、寒さや感染症対策（まん延防止重点措置がとられたため）として、全校朝会を控えました。そこで、この紙面を利用して、生徒たちへのメッセージです。

\* \* \* \* \*

先日行われた第100回全国サッカー選手権大会で、熊本県・大津高校が準優勝を果たしました。元日本代表サッカー選手の巻誠一郎選手や森保ジャパンで日本代表に選出されたこともある植田直通選手・車屋紳太郎選手の出身校です。この大津高校で現在総監督を務めるのが平岡和徳監督。30年近く前に着任し、サッカーでは無名の公立高校を全国大会常連校に押し上げました。

着任したころからの平岡監督の徹底した指導は、

サッカーがうまくなるためには、まず 。

空欄に当てはまる言葉には、何が入ると思いますか？ 「生活習慣をあらためよ」です。あいさつ・部屋の整理整頓を徹底させるとともに、部室を生徒とともに清掃したり、授業中、寝ている部員を見つけると真剣になって叱ったり……。そして、新入部員には、

技を覚える前に、  と  を鍛えよ。

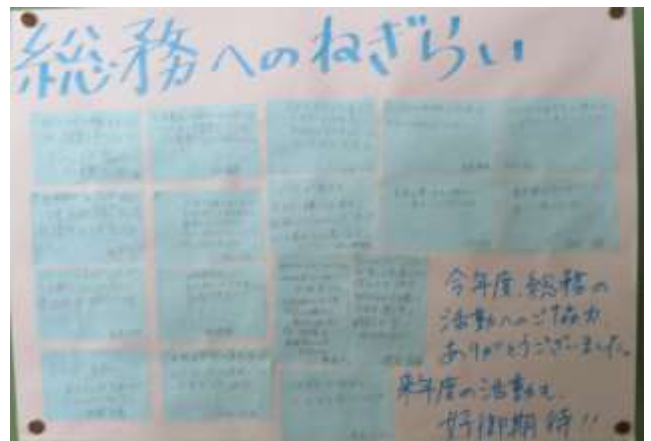
空欄には、「目」と「耳」が入ります。「人の話を真剣に理解しようと心掛け、見る力・聞く力を養わなければ、自分で判断して行動できるようにはならない。」と述べていました。

そして、学校の渡り廊下の壁には、平岡先生直筆の「凡事徹底」の文字。「当たり前のことを人並み以上に一生懸命やる」ことの大切さを語っておられました。

そして、同様の話をもう一つ紹介します。

数年前、22年ぶりに明治大学ラグビー部が日本一に輝きました。導いた田中澄憲監督が着任してまず取り組んだのは「生活習慣を整えること」とのこと。これに関連して、明治大学ラグビー部では、大手企業が社員研修に使用している、あるアプリを取り入れました。91人の選手全員が自分のスマートフォンで、ゴミを捨てるなど生活の中で当たり前にするべき目標を設定。実行できたか、毎日振り返らせることにしたのです。

生活習慣を整える、当たり前のことを当たり前。それが自己の成長につながると考えます。



## 第2回明和会総会実施！



1月31日、第2回明和会総会(生徒総会)を実施しました。今回も、柔剣道場に特設の会場を設け、議長団、総務委員、専門委員長、部長がTV放送を通じて年間の活動報告を行いました。生徒は各自の教室で参加としました。寒さへの配慮や新型コロナウイルス感染防止のためです。

その後の代表質問の様子も中継し、「レクやイベントを増やしてほしい」などの要望に対し、「レクやイベントを増やすことで輝ける人は増えると思うが、自立の面があまり成長できない・運営面での負担があるなどの声もある。バランスを

考えて検討していきたい」「総務と委員会の連携を一層深めたい」との回答があり、深まりのある討議がなされました。



総会の総括として、副会長からは「3年生は残された期間で思いを後輩に引継ぎ、1・2年生はそれを受け取って、来年度の活動がより良いものになるように取り組んでください。」と締めくくってくれました。

今回の総会をもって、3年生総務が退任となり、最後に一人ひとり挨拶を行いました。

「全校のみなさんが全力で取り組み、笑顔を見ることができて、達成感を感じることができました。活動を通して臨機応変に活動することができました。支えてくださった皆さん、ありがとうございました。」などと、それぞれの思いを語っていました。

## 新入生保護者説明会より

1月20日に新入生保護者説明会を実施しました。挨拶の中で、いくつか資料を紹介させていただきました。そのうちの1つが以下のものです。子育てに役立てば幸いです。

### 自分で壁を乗り越えさせるために

親業インストラクター・関崎智弥さんの講演より

子どもの気持ちを受け止め、自分で問題を解決できるように促すことが大切です。例えば、命令「文句ばかり言っていないでさっさと行きなさい」、脅迫「そんなことをしたら困るのはあなたよ」などの関わりは、子どもの心を閉ざすことにつながり、逆効果です。「私」が主語のメッセージが効果的です。また、目の前にある壁を親が壊してしまうと、壁を乗り越える力がつかない、場合によっては親に責任転嫁をしたり、親に頼り切りになってしまったりする子どもになってしまいます。「心の傷に貼る絆創膏」をもち、必要なときに貼ってあげ、自分で壁を乗り越えさせることが大切です。いっぱい悩んだり苦しんだり、そんな経験をしながらも、気持ちを分かってくれる親がそばにいるという安心感が子どもを成長させます。

※親業＝ゴードン博士が提唱しているカウンセリング、学習・発達心理学、教育学など、行動科学の研究成果を基礎にした親子のコミュニケーションを円滑にするプログラム

子どもたちの活動の様子をホームページ(西中ブログ)でお知らせしています。ご覧ください。